

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年11月02日

計画の名称	新幹線開業に伴う拠点形成と公共交通ネットワークの充実による大村らしいコンパクトシティの実現												
計画の期間	平成28年度 ~ 令和02年度 (5年間)										重点配分対象の該当	○	
交付対象	大村市												
計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来訪者の利便性向上に向けた情報発信機能や人々の賑わい・交流を創出するため、周辺の公共用地などを活用し、景観や環境に配慮したシンボル性の高い市街地整備を図る。 ・ 空港や市内の各拠点とのネットワーク向上を図るため、他の公共交通との連携や拠点を結ぶ道路整備の促進、駅前広場整備などにより、交通体系及び交通結節機能の強化と安全性能の向上を推進する。 ・ 安心で安全な暮らしを守るため、交通拠点にふさわしい防災設備を備え、広域的な防災拠点としての整備を図る。 ・ 中心市街地（大村中心地区）との連携や相乗効果を図るため、新幹線新大村駅を起点とし、市民、事業者、市による協働のまちづくりを推進する。 <p>以上のことから、新大村駅周辺地区を立地適正化計画における都市拠点に位置付け、居住及び都市機能の立地を誘導し、交通結節機能を活かした交通ネットワークの要衝として、『世界へ、そして未来につながる・緑と歴史の大舞台 大村』をテーマに、大村らしいコンパクトなまちづくりを実現する。</p>												
全体事業費（百万円）	合計（A + B + C + D）	3,119	A	3,059	B	0	C	60	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A + B + C + D)	1.92	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H30末)	最終目標値 (H32末)
1	市北部の鉄道利用者数を1,161千人/年（H25）から1,166千人/年（H32）に増加 JR九州乗降客調査における市内北部（松原駅～諏訪駅）の鉄道利用者数（千人/年）を調査する。	1161千人/年	1161千人/年	1166千人/年
2	中北部地域住民の鉄道の利便性に関する満足度を2.63点から3.00点以上 中北部地域住民の鉄道に関する満足度調査結果の平均値を計測・算定する。 1点～5点の5段階評価	2点	2点	3点
3	中北部地域住民のバスの利便性に関する満足度を2.21点から3.00点以上 中北部地域住民のバスに関する満足度調査結果の平均値を計測・算定する。 1点～5点の5段階評価	2点	2点	3点
4	中北部地域の定住人口を53,078人（H22）から55,072人（H32）に増加 中北部地域の定住人口を計測する。 国勢調査人口ベース	53078人	54700人	55100人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	大村市	直接	大村市	-	-	新大村駅周辺地区都市再生整備計画事業	広場、自由通路等 24.8ha	大村市						749	-	
		交付金対象事業費																	
												小計						749	
市街地整備事業	A13-002	市街地	一般	大村市	直接	大村市	-	-	新大村駅周辺都市再生土地区画整理事業	土地区画整理事業 9.5ha	大村市						2,264	-	
		交付金対象事業費																	
												小計						2,264	
道路事業	A01-003	道路	一般	大村市	直接	大村市	市町村道	改築	市道竹松町金谷線	現道拡幅L=70m,W=8.5m	大村市						34	-	
	A01-004	道路	一般	大村市	直接	大村市	市町村道	改築	市道竹松町金谷線	歩道整備L=290m,W=2.0m	大村市						12	-	
											小計						46		

C 効果促進事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容(延長・面積等)	市区町村名/港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	費用便益比	個別施設計画策定状況	
												H28	H29	H30	H31	R02				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市再生整備計画事業	C10-001	都市再生	一般	大村市	直接	大村市	-	-	新幹線駅前景観デザイン計画策定	新幹線駅周辺景観基本方針、新幹線駅舎等景観デザイン検討	大村市						11		-	
		新大村駅周辺地区都市再生整備計画事業と一体的に実施することにより、交通結節点の魅力の向上や交流人口増加などに寄与する。																		
都市再生整備計画事業	C10-002	都市再生	一般	大村市	直接	大村市/大村市新幹線アクションプラン推進協議会	-	-	新幹線駅前市民行動計画策定及び実施	市民参画による新幹線まちづくり行動計画策定	大村市						14		-	
		新大村駅周辺地区都市再生整備計画事業と一体的に実施することにより、交通結節点の快適性向上や交流人口増加などに寄与する。																		
都市再生整備計画事業	C10-003	都市再生	一般	大村市	直接	大村市	-	-	新幹線駅前民間施設(都市機能立地支援)誘導計画策定	民間施設誘導計画、民間事業者の公募	大村市						35		-	
		新大村駅周辺地区都市再生整備計画事業に合わせて、民間施設(都市機能立地支援)を誘導することにより、賑わい拠点形成に寄与する。																		
											小計						60			
											合計						60			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
大村市都市整備部新幹線まちづくり課にて、事後評価を実施	事業終了後
	公表の方法
	大村市ホームページに記載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>【指標：市北部の鉄道利用者数】評価値は、最終目標値を下回る結果となった。</p> <p>【指標：中北部地域住民の鉄道の利便性に関する満足度】評価値は、最終目標値を下回る結果となった。</p> <p>【指標：中北部地域住民のバスの利便性に関する満足度】評価値は、最終目標値を下回る結果となった。</p> <p>新大村駅における駅前広場や自由通路等の整備、新幹線駅前景観デザイン計画策定、市民参画による駅前市民行動計画の策定、新幹線駅前民間施設誘導計画の策定等、交通結節点の魅力・快適性向上に向けた取り組みを進めているが、コロナ禍による外出自粛要請の影響等により、現時点では指標の達成には至らなかった。</p> <p>【指標：中北部地域の定住人口】評価値は、最終目標値を達成する結果となった。</p> <p>新大村駅周辺土地区画整理事業や市道竹松町金谷線整備等、地域住民の生活利便性向上に向けた取り組みを進めており、それらが契機となり、中北部地域の定住人口増加につながった。</p>
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<p>毎年度実施の「大村市のまちづくりに関する市民満足度調査」結果において、西大村地区住民の「快適で暮らしやすい都市環境の整備」に対する評価は向上しており、公園や下水道整備の各事業の整備が進んだことで、地区住民の安全性・快適性・利便性が向上し、日常生活に大きな変化が生まれ、都市環境の整備に対する満足度向上につながったと考えられる。</p> <p>また、同じく西大村地区住民の「道路網の整備と公共交通の利便性の向上」に対する評価も向上しており、都市計画道路の一部や自由通路、駅前広場の各事業の整備が進んだことで、従前に比べ公共交通の利便性が更に向上し、地区住民の道路網・公共交通の整備に対する満足度向上につながったと考えられる。</p>
特記事項（今後の方針等）	
<p>今後の方針</p> <p>新たな事業（【計画の名称】新幹線開業に伴う拠点形成と公共交通ネットワークの充実による大村らしいコンパクトシティの実現（第2期））において、上記4指標を継続して定量的指標として設定し、引き続き事業を推進し、効果が発揮されるように努める。</p>	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	市北部の鉄道利用者数の増加（千人/年）		
	最終目標値	1166千人/年	令和2年2月以降のコロナ感染拡大に伴う行動制限等に伴い、鉄道利用者が大きく減少したため。
最終実績値	872千人/年		
2	中北部地域住民の鉄道の利便性に関する満足度向上（点）		
	最終目標値	3点	令和2年2月以降のコロナ感染拡大に伴い、鉄道を利用することによるコロナ感染への不安から鉄道への利便性を感じにくくなり、満足度を向上させるには至らなかったと考えられるため。
最終実績値	2点		
3	中北部地域住民のバスの利便性に関する満足度向上（点）		
	最終目標値	3点	令和2年2月以降のコロナ感染拡大に伴い、バスを利用することによるコロナ感染への不安からバスへの利便性を感じにくくなり、一定程度の満足度の向上があったものの目標値までの向上には至らなかったと考えられるため。
最終実績値	2点		
4	中北部地域の定住人口の増加（人）		
	最終目標値	55100人	中北部地域の定住人口増加については、新大村駅周辺土地区画整理事業や市道竹松町金谷線整備等、地域住民の生活利便性向上に向けた取り組みが契機となり、人口定着につながったため。
最終実績値	55618人		